

1 西都市の神話や地域資源について

西都市の神話や西都市の地域資源などについては、西都市プロモーションビデオ（各PR動画）のほか、西都市ホームページをご参照ください。

西都市プロモーションビデオ

<https://www.city.saito.lg.jp/shiseigyosei/video/>

西都市ホームページ

<https://www.city.saito.lg.jp/>

2 西都市にまつわる主な神話の概要について

【コノハナサクヤヒメとニニギノミコトの恋の物語】

神話の時代、水清らかな桜川、緑深き妹田（いもだ）の里で育ったコノハナサクヤ姫は可憐な花のように美しく成長しました。ある日、今も尽きることなく清水の湧き出ずる逢初川で、りりしい皇子に出会います。この皇子こそ天照大神につかわされ、西都原へ降り立ったニニギノ尊でした。皇子は高千穂から新天地を求め西都原高取の地に皇居を構えていたのです。

尊の一途な眼差し（まなざし）に出会った姫は、胸の高鳴りを押さえながら、尊の「あなたのお名前を是非教えてください」の問いにも答えず、恥ずかしさのあまり走り去ってしまいます。しかし、その後、二人の想いは愛情となり、日ごとに高まるばかり。姫は、父の許しを得て、事勝国勝長狭（ことかつ・くにかつ・ながさのみこと）の仲人により、恋い慕うニニギノ尊とめでたく婚礼の儀を迎えることになりました。

めでたく婚礼の儀を終えた二人を、西都原に降り立った神々も、また二人を慕う人々も、炎を絶やすことなく、夜を徹して祝福したといいます。

二人は、初めて二人を巡り逢わせた思い出の地、逢初川のすぐ近くに八尋殿（やひろでん）を建て、新婚第一夜を迎えます。しかし、二人だけの生活も一夜限り。二人が今日のこの炎のように、燃えるような一夜を過ごしたのも束の間、東の空が白みだしたころ、ニニギノ尊は他族の反乱を告げる伝令によって起こされました。国造りの命を受ける尊にとって賊の平定は急務。後ろ髪を引かれる思いを振り払いながら、愛する姫を一人残し、戦場へと向かうのでした。

尊を戦場へ見送って早十月。愛する人の戦場での無事と、たった一夜ではあるけれど、あの思い出を胸に、姫は愛しい尊の帰りを一日千秋の思いで待っていました。やがて、尊、凱旋の報せが姫の元に届きます。「尊が帰ってくる・・・ああ、愛おしいあの方が私の元にお

帰りになる。」尊に会えることを思うと、胸はつぶれんばかり。尊も戦の中にも姫のことを思わぬ日はありませんでした。無事な尊の姿を前に、姫は喜び、泣き崩れ、尊の子を身籠り、そして、今日にも子供が産まれることを告げました。すると、尊は驚いたように、姫の肩を突き放したのです。たじろいだ姫は、尊の目に疑いと軽蔑があることを見ました。尊は言いました。「たった一夜の契りで身籠るはずがない。」

尊のあまりな言葉に、姫はその場に崩れ落ちました。やがて力なく立ち上がった姫は悲痛な面持ちで言いました。「私は身の潔白を晴らすため、今からこもる産屋に火を放ちます。炎は三日三晩燃えるでしょう。でも、産まれてくる子は尊の子、そう、神の子です。焼け死ぬこともなく、立派に産まれるでしょう。そして、私も守られるはずです。」と立ち尽くす尊を前に、茅（かや）で作った無戸室（うつむろ）に火を放ったのです。

燃え盛る炎の中から、姫の言葉どおり、元気な産声が聞こえてきました。最初に生まれたのがホデリノ尊、次にホスセリノ尊、三番目にホオリノ尊と次々と3人の皇子が誕生しました。

こうして皇子の誕生を、この地の人々は、たいへん喜び、誤解の解けたニニギノ尊とコノハナサクヤ姫は、その後いつまでも仲睦まじく暮らしました。現在、この地、御陵墓は、二人をまつる墓として伝えられています。

【鬼の窟（いわや）とコノハナサクヤヒメ】

コノハナサクヤ姫がニニギノ尊と出会う前の話。

昔、西都原には鬼が住みついでいました。ある日、鬼は美しいコノハナサクヤ姫を見かけ、「コノハナサクヤ姫を是非とも嫁にしたい。」と姫の父オオヤマツミに申し込みました。

姫を鬼の嫁にしたくないオオヤマツミは「一晩で大きな窟を作りあげればコノハナサクヤ姫を嫁にやろう。」と鬼に難題を出しました。

しかし、力持ちの鬼は夜明け前に窟を完成させ、安心して居眠りをし始めたのでした。

そこへやって来たオオヤマツミは、完成した窟を見て驚きました。困ったオオヤマツミは鬼の眠っている隙に石をひとつ抜き取り投げ捨てました。

夜が明け、鬼が目覚めるとすぐにオオヤマツミがやって来て、「石の抜けた窟に娘を嫁にやるわけにはいかん。」と姫との縁談を断ったのでした。